

# 修士設計要旨

## 佐川町集落活動センターの基本設計 -「広がりしろ」を持つ地域の拠点-

社会システム工学コース 1185096

大森 匠

### 1.背景・目的

佐川町加茂地区では集落活動センターを建設するため地域の拠点整備を進めることを検討し「加茂地区活性化計画」が作成された。その後、集落活動センターの基本設計、実施設計の依頼が建築デザイン研究室にあり、基本設計、実施設計を行う事となった。

本修士設計では佐川町加茂地区集落活動センターの基本設計を行い、まとめることを目的とする。

本修士論文は5つの章から構成されている。

1章では本修士設計の背景と目的を示している。2章では計画の概要を示し、3章ではワークショップによる協同設計の内容を時系列でまとめて示した。4章では基本設計の内容を示し、最後に5章で設計のまとめを示し、本修士設計をまとめた。

### 2.計画の概要

佐川町土佐加茂 621-1,621-5,621-8 を計画敷地とする。敷地面積は 1571.115 m<sup>2</sup>でこの敷地に加茂地区集落活動センターを設計する。必要室は会議室、多目的室、工房、その他である。

### 3.ワークショップによる協同設計

#### 1) ワークショップ 1

建設費用、敷居面積等の設計条件で住民がワークシートに色紙を切り貼りして平面図を作成し、発表した。

#### 2) ワークショップ 2

建築デザイン研究室が4つの設計を提案し住民から質疑を受けた。

#### 3) 役員打合せ

建築デザイン研究室が2つの設計を提案し役員から質疑を受け、基本設計の方針が決定した。

## 4. 基本設計

ワークショップ 1、ワークショップ 2、役員打合せより計画方針、基本設計の方針が決定した。

### 1) 計画の方針

- ・地域の人々が集まり、地域の活動の中心となる空間とする。
- ・会議室、多目的室（厨房を含む）、工房を有する施設とする。
- ・採光、通風に優れた明るく使い易い柔軟な施設とする。
- ・佐川町加茂地区の優れた眺望をいかしつつ、周辺の景観にふさわしい建物とする。

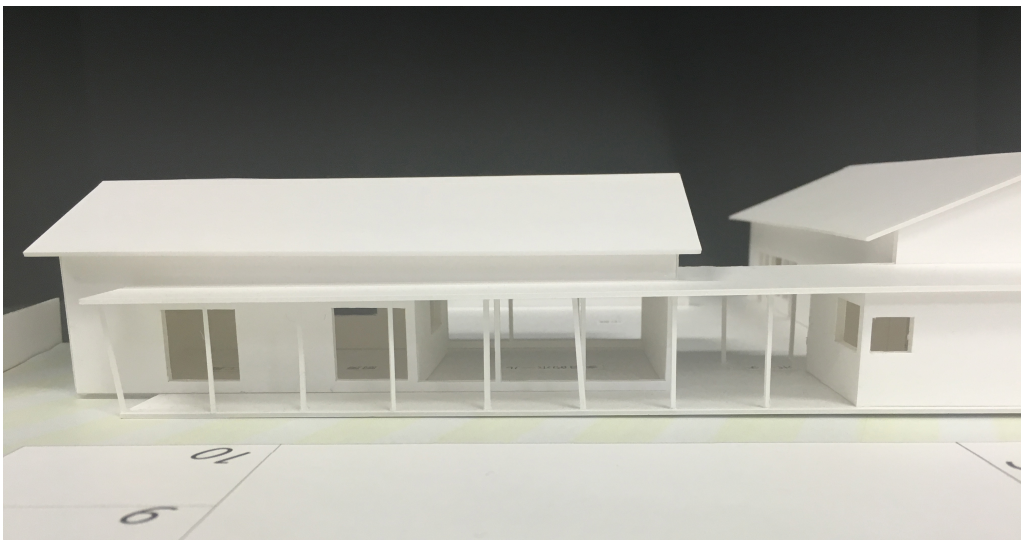
### 2) 基本設計の方針

- ・様々な集まりや活動に対応した「広がりしろ」をもつ。
- ・切妻分棟型の施設をポーチ、中庭によってつなぐ。
- ・各室の活動は屋外空間と連携して外部に展開する。
- ・多目的室や中庭からの優れた眺望を確保する。

基本設計の方針に従って仕様概要書、配置図、平面図、断面図、立面図 01、立面図 02、その他の資料が完成した。

## 5. まとめ

本修士論文では複数の「広がりしろ」を組み合わせ様々な活動に対応できる拠点の基本設計を行った。屋内への「広がりしろ」は面積が大きくなりがちなため建設コストが高くなり、屋外への「広がりしろ」は建設コストが低くなる。本設計では住民の意向により屋外への「広がりしろ」を用いた。



北から見た模型写真